

## 平成26年度 学校評価 自己評価書

あま市立七宝小学校

### 1 総括

#### (1) 教育目標（学校経営案より）

「じょうぶで、なかよく、しんけんに」を校訓とし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指すとともに、生涯学習の視点に立ち、社会に貢献できる児童の育成を図る。

#### (2) 本年度の重点努力目標

##### ア 校内現職教育の推進

- ・ 「協同的な学び」のある授業を行い、創意工夫する中で教師の力量が高まる学校を目指す。
- ・ 道徳の時間を始め、さまざまな場面を通して、児童一人一人の学び合う力を伸ばすことができる研究を進める。

##### イ 児童理解の充実

- ・ 児童や保護者の理解や信頼を得るために、日ごろの関係づくりを大切にする。
- ・ 児童との相談活動を充実させ、家庭環境や家族関係などを考慮した児童理解に努める。
- ・ 教職員全体で情報を共有し、指導に当たることができる体制を整える。

##### ウ 子どもたちの環境整備

- ・ 自然（命）や物、時間を大切に扱う心を育む場を意識した教育活動を行う。
- ・ こども見守り隊やボランティアの協力、充実を図る。
- ・ FBC花壇の世話を児童や職員、保護者とともに推し進める。

##### エ 地域社会の中の連携

- ・ 近隣の小中学校と連携を強め、地域の願いを生かすように心がける。
- ・ 保護者を含め、地域のボランティア講師を招いて、児童とのふれあいや関わりを深める。

### 2 自己評価の実施体制

#### (1) 調査時期平成26年12月5日～22日

#### (2) 調査項目別紙アンケート参照

#### (3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

- ・ 児童生徒346名／全 348名 ・ 学校評議員4名／全 4名
- ・ 保護者 505名／全 514名 ・ 教職員30名／全 30名 計885名

### 3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

### 4 考 察【児童・生徒、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

- (1) 全体を通して、数値としては大きな変動はないものの、良くなった項目が8であったのに対して悪くなった項目は10であった。保護者においては、昨年度同様、達成状況のAが15項目中14項目を占め、「自主的に学習している」の達成状況は昨年度のBからCへと落ちている。児童の評価でも「家で進んで勉強している」が達成状況Cであり、保護者と児童の意識は一致しているといえる。
- (2) 児童アンケートを学年別に見ると、「おうちの人にもっと学校での様子を見てほしい」の項目の数値は昨年度同様低いですが、昨年度より3%ほど上昇している。「家で進んで勉強している」は、昨年度と比較すると、数値的には微増で大きな変化はないが、学年ごとでみると、5, 6年生が前年度と比較して高くなっている。「学校の授業は、わかりやすい」では、学年が上がるにつれて達成状況Aの割合が高くなっている。また、「進んであいさつをしている」では、前年比5%の上昇で、中学年以上の児童のあいさつに対する意識の高まりを感じる。
- (3) 教職員の評価では、6項目が昨年度より上がっている。職員構成が昨年度と比較してもあまり変化がなく、

評価の仕方や観点についてよく周知された上での評価であり、さらには共通理解に基づく指導が徹底していたことに起因すると考えられる。15項目中13項目で達成状況Aであり、全般的には良い結果であるが、「人に進んであいさつをしている」や「交通ルールをよく守っている」については、達成度がD評価となっている。学校として取組や徹底の方法を反省するとともに、児童自身が考えて行動する態度を身につけさせたい。

- (4) 保護者からは、学校の取組を評価する内容、改善しなくてはいけない点について多くの指摘があった。学校独自で取り組めるもの、そうでないものを精査しながら検討し、前向きに取り組む必要がある。

※詳細は、別紙「保護者意見集約」参照

## 5 成果と課題

### 《成果》

- (1) 保護者アンケートでは、多少の変動はあるものの、全般に高い数値で安定しており、14項目で達成状況がAである。そのうち9項目で90%を上回っており、好意的に学校をとらえているといえる。ただ、「担任の先生や他の教職員に気軽に相談できる」は昨年度より評価が下がっている。「開かれた学校」をアピールし、日頃の学校の保護者に対する接し方について理解を得ることが大切である。
- (2) 「家で進んで勉強している」の項目において、5年生は昨年度の69.1%から80.9%へ。6年生は54.1%から66.0%へと、それぞれ11ポイント以上上げており、高学年の児童の学習に対する意欲がおおいに高まった。日頃の教職員の指導及び家庭との連携が功を奏した結果と考える。

### 《課題》

- (1) 「家庭で自主的に学習している」の項目が、児童・保護者ともに評価が低い。それに対して教職員は、「自主学習に取り組めるように働きかけている」では、11%アップしており、児童・保護者との意識のずれを感じる。学習の進め方や取組の方法などを家庭に伝えるとともに、具体的な方法を学校全体で考え実践を進めたい。
- (2) 挨拶ができていないことを教職員が特に強く感じている。この結果はここ数年あまり変わっていない。ただ、児童アンケートでは、5%上昇しており、児童の意識は変わりつつあるようだ。保護者や地域の住民からも挨拶の徹底を望む声が学校に伝えられ、日々指導や声かけをしている。さらに具体的な指導や方策を考え、今後につなげたい。
- (3) 児童アンケート、保護者アンケートともに「授業が分かりやすい」の項目が下がっている。学力向上の取組を進め、学習の中でどのように児童を生かし、支援するかについて現職教育を推進する必要がある。項目8「毎日、学校へ行くのが楽しい」では、まだ15%の児童が楽しさを実感できていないことが調査から分かり、そのような児童の気持ちに寄り添う指導を工夫することが必要である。
- (4) 児童アンケートでは、年々上昇傾向にあった「担任の先生は、自分がかんばったとき、よくほめてくれる」や「学校の授業はわかりやすい」の項目の評価が下がっている。教育相談を行ったり現職教育で講師を招聘して児童理解や学力向上について研修したりして、今後の改善につなげたい。
- (5) 運動会での暑さ対策を望む声が数件あった。テントを張ってほしいという要望もあったが、これについては現時点では実現は難しい。

## 6 改善策

- (1) 児童会に呼びかけ、校内のあいさつ運動を拡大し、実行する。
- (2) 運動会の暑さ対策については、引き続き実施時期を遅らせるなどで対応したい。
- (3) 各種行事の開催（時期や方法）についてのご意見をいくつかいただいた。保護者の要望を念頭に置いて、職員で検討したい。